

# 高松第一高等学校校舎改築基本構想

平成26年6月

高松市教育委員会

# 目 次

第1章 改築基本構想策定の背景	1
1 策定の目的	
2 沿革と現況	
3 高松一高整備計画庁内検討委員会の設置とこれまでの検討経過	
4 校舎改築の必要性	
第2章 高校教育を取り巻く状況	2
1 中学校卒業生数の推移	
2 県内公立高校の動向	
第3章 高松一高の現況	3
1 教育目標とグランドデザイン	
2 現在の学科・コース編成	
3 進路指導と実績	
4 部活動等の状況	
第4章 高松一高のあるべき姿	5
1 市立高校の存在意義と使命	
2 アンケート結果	
3 学科を新設した場合のメリットと課題	
4 コースを新設した場合のメリットと課題	
5 学科の新設における留意点	
6 学校規模	
7 学科またはコースの新設の分野別検討	
第5章 施設整備	9
1 施設整備の基本的な考え方	
2 具体的施設について	
3 その他の留意すべき事項	
4 校舎の高層化	
5 施設整備に関するアンケート結果	
第6章 改築スケジュールと概算事業費	13

## 第1章 改築基本構想策定の背景

### 1 策定の目的

高松第一高等学校では、校舎全体の老朽化が進んでいることにより、校舎の改築が必要となっている。校舎の全面改築に当たっては、市立高校としての果たすべき使命や役割を考えた上で、学科・コースなどソフト面としての基本的な在り方について、改めて検討するとともに、施設の適正規模や配置などハード面を含む将来を見据えた総合的な検討が必要であり、改築基本構想を策定することとした。

### 2 沿革と現況

昭和3年 本校の前身、高松第一中学校は、市長が当時の中学校入学難の緩和と将来の市民教育のための市立中学校の創立に奔走し、関係者の熱意と市民の期待に祝福され、設立される。

23年 学制改革により高松第一高等学校と改称する。

24年 高松第二高等学校（旧高松実科高等女学校）と統合する。

40年 普通科に「芸術専門コース」を設置する。

54年 「芸術専門コース」を廃止し、音楽科を設置するとともに、普通科に「美術専門コース」を設置し、現在に至るまで芸術教育にも力を注いでいる。

58年 普通科に「国際英語コース」を設置する。（平成22年「国際文科コース」に改称）

59年 普通科に「特別理科コース」を設置し、現在に至るまで全国的に高まる普通科志向と進学希望に応える高校づくりに取り組んでいる。

平成15年 文部科学省のスーパーイングリッシュランゲージハイスクール（SELHi）に3年間指定され、先進的な英語教育の実践的研究を推進し、指定解除後も引き続き研究成果を生かしたカリキュラムの工夫を継続して、英語教育の向上に取り組んでいる。

22年 文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール（SSH）に5年間、中核市立の高校としては全国で唯一指定され、大学・科学博物館と連携した講義・校外研修や少人数指導、海外研修を行うなど、国際社会で活躍できる科学技術系人材育成を目指した先進的な理数教育を実施している。

こうした、長い歴史と伝統を受け継ぎながら、今日までに4万人を超える卒業生を送り出し、平成30年に創立90周年を迎えようとしている。

今日では、国公立大学の合格者が、県内でも1・2位を競う進学校であることから、中学生間の人気も高く、学校説明会（オープンスクール）の参加者は、毎年、入学定員の3倍を超える状況である。

### 3 高松一高整備計画庁内検討委員会の設置とこれまでの検討経過

平成7年に高松第一高等学校(以下「高松一高」という。)の校舎を整備するため整備計画庁内検討委員会を発足し、その後、委員会開催と先進校の視察を重ね、将来の高松一高が持つべき性格と規模を検討し、「進学校として普通科と音楽科の規模を継続する。」ことを中間報告として決定した。

また、野球部の練習は、昭和39年から三木町にある練習場で行っていたが、借地料の関係があり、平成6年から、南部運動場を使用するようになった。この間、野球部OB会会長およびPTA会長から市長、議長・副議長および教育長へ野球部専用運動場の確保について陳情があった。また6年から11年まで市議会において、数回、高松一高のグラウンド整備計画について質問があり、それに対して「高松一高全体の整備計画の検討の中で、校地内に設ける方向で検討する。」と答弁している。

その後、小中学校の統合問題、校舎の耐震問題などの新たな課題が生じる中で、高松一高の校舎改築検討の作業は先送りされることになった。しかし、それらの課題に目処が立ったことから、庁内検討委員会の審議を再開し、教育委員会内の意見をとりまとめ、21年2月の政策会議において「高松第一高等学校のあり方」について、基本的な了解を得た。その後、24年10月の政策会議および25年2月の政策会議を経て、25年度から、校舎改築のための基本構想の策定にとりかかり、30年度の主要施設着工をめざすこととなった。

### 4 校舎改築の必要性

高松一高の主要な校舎は、昭和43年に建設され、築45年が経過し、老朽化が顕著な状況である。市内の県立高校が次々と改築されていく中で、市民の期待に応え、一層魅力ある高松一高を実現するためには、市の中心部にあり、交通の便にも恵まれた現在地での全面改築が必要である。

また、現在の第一体育館は昭和37年に、第二体育館は昭和54年に建築され、ともに老朽化が進んでいるため、利便性に優れた新体育館を建設する必要がある。さらに、運動場が狭隘で、野球部の練習は校内の運動場では出来ていない現状から、校舎棟の高層化および現敷地内で野球部の練習場の確保を検討する必要もある。

## 第2章 高校教育を取り巻く状況

### 1 中学校卒業生数の推移

高松一高の平成18年から24年の地区別生徒数の推移を見ると、高松市内の中学校卒業生が80%を超えており、25年は、高松市内の中学校卒業生が83%となっている。

本市の年齢別登録人口から、中学校卒業生数を推計すると、平成24年の3,966人から、27年の4,276人まで、毎年、増加し続け、その後、多少の増減を繰り返すが、40年までは、21年の3,800人を下回ることがない。

41年以降は、登録人口による推計ができないため、少子化の影響と都市集中の度合いの見極めが難しく、推計が困難であるが、長期的に見ると漸減することが想定される。

## 2 県内公立高校の動向

「香川県県立高校の学校・学科の在り方検討会議報告書」（平成20年9月9日）の資料によると、県内の平成19年から34年までの中学校卒業生数は、26年の9,853人をピークに34年には8,465人へと減少すると予想されている。

また、平成19年と比較して、34年の地域別の中学校卒業生数は、高松地域が1.4%減、中讃地域が7.5%減、その他の地域では24.6%～47.6%減となっており、相対的に高松地域に集中する形となっている。

学校の適正規模（1学年5～8クラス）を維持する場合は、高松地域への一極集中と高い志望倍率になることが課題であるとされ、小豆、東かがわ・さぬき、三豊・観音寺の3地域の各高校は生徒の減少と学校の小規模化等が課題となり、また、中讃地域の小規模高校は生徒数の減少による活力の低下の恐れがある、とされている。

現在、高松一高の普通科は、通学区域が第一学区に指定され、音楽科については、県内全域となっている。高松地域の公立高校8校すべての高校が、県が適正規模の学校としている基準（1学年5～8クラス）を満たしている。

## 第3章 高松一高の現況

### 1 教育目標・教育方針とランドデザイン

#### (1) 教育目標・教育方針

高松一高の教育目標・教育方針を次のとおり定めている。

#### 教育目標

国際社会や国家、地域で活躍し、人類の福祉や文化の向上に貢献できる創造的な知性や豊かな人間性、社会性を身につけるとともに、生涯にわたって自己実現を図ることができる、心身ともにたくましく、自主と自律に拠る自由の精神を備えた人間の育成をめざす。

#### 教育方針

##### ① 創造的な知性を身に付けた人間の育成

自ら学び自ら考える意欲や知的探究心を喚起して一人一人の個性や能力を最大限に伸ばし、国際的、人類的視野を持つ創造性豊かな知性を身に付けた人間を育成する教育を推進する。

##### ② 豊かな人間性、社会性を身に付けた人間の育成

学習や学校行事、部活動などの教育活動を活発に行い、豊かな感性や柔軟な心などの人間性、規範意識や自他ともに尊重して協調する意識などの社会性を身に付けた人間を育成する教育を推進する。

③ 心身ともにたくましい人間の育成

多彩な学校生活を展開するなかで、自らの生涯にわたって希望を実現できるよう困難な課題に直面しても粘り強く取り組む姿勢を培い、心身ともにたくましい人間を育成する教育を推進する。

④ 自主と自律に拠る自由の精神を備えた人間の育成

学校の内外にわたって特色ある教育活動を積極的に行い、自ら目標を定めて主体的に取り組む、自ら律して品位ある生活を営む姿勢を培い、自由の精神を備えた人間を育成する教育を推進する。

⑤ 教職員の不断の研鑽と組織的な教育の推進

教育目標の達成のため、自らの資質能力の向上を目指して教職員が不断の研鑽を重ねるとともに、組織的な連携による教育を推進する。

⑥ 生徒・保護者・教職員の三者一体となった教育の推進

生徒、保護者および教職員が、相互に理解、連携、協力し、一体となった教育を推進する。

(2) グランドデザイン

高松一高のミッション・特徴・教育目標および部門ごとの重点方針・今年度の目標を、とりまとめたグランドデザインを作成し、毎年見直すこととしている。(別添資料のとおり)

## 2 現在の学科・コース構成

現在、本校では、普通科7クラス(定員280人)と音楽科1クラス(定員25人)の2つの学科がある。

普通科……普通教育を主とし、大学進学を目指す学科

音楽科……音楽教育を主とし、専門性を生かした進学を目指す学科

さらに、普通科内に以下のコースを設けている。

国際文科コース(1クラス)、特別理科コース(1クラス)、

文理コース(5クラス)、美術専門コース(2、3年の文理コース内に併設)

このうち、特別理科コースにおいては、スーパーサイエンスハイスクール(SSH)の取組の一つであるグループでの課題研究や各種発表会における発表を通して、科学的知識の習得のみならず、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力の涵養も図られている。

今後、この基本的な路線を継続するべきか、さらに特色を出すため、芸術系のコース等を新設するべきか、を検討する必要がある。

## 3 進路指導と実績

高松一高は、普通科と音楽科を併設した進学校として全国各地の大学に多数の合格

者を輩出し、県内外でも高い評価を得ている。過去5年間の国公立大学合格者数は、平均約220人、私立大学合格者は400人以上で、難関校にも多数の現役合格者を出す進学校となっている。特に、国公立大学合格者数では、24年度240人、25年度も227人と、2年連続して県内トップになるなど、進学実績は顕著なものがある。

また、普通科には、国際文科、特別理科、美術専門のコースを設置し、生徒や保護者の進路に関する多様なニーズに応えられるカリキュラムを編成している。

そのため、本校開催のオープンスクールは、定員の3倍を超える多くの中学生が訪れる盛況ぶりで、中学生の人气が県内1、2位を争う高校となっている。

こうした期待に応え、一層魅力ある学校づくりのため、高松一高の将来像と実現のための教育活動、さらに学校運営などについて、検討していく必要がある。

#### 4 部活動等の状況

本校の部活動は、全校生徒の加入率約90パーセントを超える活発な状況にあり、25年度は、バドミントン部、水泳部、陸上部がインターハイに、合唱部、放送部、写真部、将棋部が全国大会に出場するなどの活躍を見せている。特に、吹奏楽部と合唱部は、四国大会に毎年出場する常連校となっているとともに、サンポートホールなどで定期演奏会を毎年実施し、多数の観客を集めている。また、日弁連主催の高校生模擬裁判選手権では、22年度から四国大会3連覇の偉業をなし遂げた上、24年度には関西大会優勝校との対戦でも勝利した。さらに、ダンス部が、高松冬のまつり等の地元行事に参加して、好評を博しているほか、生徒会活動においても、お遍路さんの通る拠点に、実のなる「接待木」を植え育てる運動に協力するなど、地域との交流やボランティア活動も盛んである。

### 第4章 高松一高のあるべき姿

#### 1 市立高校の存在意義と使命

高松一高の前身、昭和3年の高松第一中学校の設立経緯は、当時の中学校入学難の緩和と将来の市民教育のためであった。このことが、市立高校の存在意義の基本となる。

したがって、現在の市民のニーズや評価を基に、進学校として質の高い教育を継続・発展させていく必要がある。以上のようなことから、高松一高の使命を、次のように考えている。

- (1) 高松市の教育のシンボルとなること
  - ・科学教育、国際教育、芸術（音楽・美術）教育など、特色ある教育の推進
- (2) 質の高い高等学校教育を行い、将来の高松市を支える人材を育成すること
  - ・学校行事や部活動などの教育活動による社会性を身に付けた人間の育成
  - ・国際感覚、コミュニケーション能力、科学的な考え方を身に付けた人間の育成

- ・学業と部活動の高いレベルでの両立と、大学進学等の進路の保障
- (3) 高松市の教育活動の推進拠点としての役割を果たすこと
  - ・高松市のコンパクト・エコシティ構想および文化芸術振興条例に貢献できる教育施設としての魅力
  - ・市内小・中学校への貢献、教育活動の公開や活動状況の情報発信

## 2 アンケート結果

25年7月1日～31日に、卒業生、生徒、保護者を始め市民にアンケートを実施し、約1,200人から回答を頂いた。そのうち、ソフト面についての結果は次のとおり。

### 一高の特色（使命と役割）について（複数回答可）

- |                                     |       |
|-------------------------------------|-------|
| ① 進学を重視した普通教育と音楽教育（現行のまま）           | 79.0% |
| ② 音楽教育を行わず、進学を重視した普通教育              | 7.9%  |
| ③ コミュニケーション能力を含めたグローバル化に対応できる国際教育   | 40.2% |
| ④ 芸術系なども重視したより幅広い教育                 | 8.7%  |
| ⑤ 多くの学科・コースを設定し、生徒の多様な適性・希望に対応できる教育 | 10.0% |

### 学科・コースのあり方

- |   |       |
|---|-------|
| ① 現行の学科・コースで良い。                                 | 85.0% |
| ② 普通科と芸術科を置き、芸術科の中に「音楽コース」・「美術コース」・「演劇コース」を設ける。 | 10.6% |

### 学科・コースの新設が必要と考える分野（複数回答可）

- |           |      |
|-----------|------|
| ① スポーツ    | 5.8% |
| ② 情報処理    | 4.3% |
| ③ 美術      | 3.3% |
| ④ 工芸・デザイン | 3.1% |
| ⑤ 演劇      | 2.5% |
| ⑥ 書道      | 2.1% |
| ⑦ 商業      | 1.9% |

## 3 学科を新設した場合のメリットと課題

### 【メリット】

- ・県内唯一の市立高校としての特色および存在意義が明確になる。
- ・生徒の多様な資質と希望に応えられる。

### 【課題】

- ・芸術系学科の場合、生徒の卒業後の進路保障が困難になるおそれがある。
- ・芸術系学科の場合、志望者の確保が困難になり、定員割れを生じるおそれがある。



- ・学科の内容により、教員免許の種類の関係から、教員の確保が困難になり、指導経験や教員免許の無い講師に学科主任やクラス担任を充てる必要が生じる。
- ・県内全体の定員の関係から、普通科の生徒の定員が減となる可能性がある。
- ・学科の内容により、教員の人件費や施設の建設・維持経費が増加する。
- ・学科の内容により、他の学科の生徒との異質性が生じ、生徒指導や学習指導に支障をきたすおそれがある。

#### 4 コースを新設した場合のメリットと課題

##### 【メリット】

- ・県内唯一の市立高校としての特色および存在意義が明確になる。
- ・生徒の多様な資質と希望に応えられる。

##### 【課題】

- ・芸術系コースの場合、生徒の卒業後の進路保障が困難になるおそれがある。
- ・芸術系コースの場合、志望者の確保が困難になり、定員割れのおそれがある。
- ・コースの内容により、教員の人件費や施設の建設・維持経費が増加する。

#### 5 学科の新設における留意点

学科の新設は、学校教育法第4条第2項、学校教育法施行規則第11条および学校教育法施行令第23条第1項第2号により、高等学校の学科の新設・廃止は県の教育委員会の認可を受けなければならないこととなっている。

普通科系の専門学科……………理数、音楽、美術、外国語、文理

職業教育系の専門学科… 農業、工業、商業、水産、家庭、看護、情報、福祉

※ 情報科は商業系統の学科であるため、商業関係の教諭が必要となる。また、コースを学科に変更し、生徒の定員に変更がない場合は、教諭の定数に変更はないものの、取得科目の単位数が変更するため科目によっては教諭が不足することになる。

#### 6 学校規模

「香川県県立高校の学校・学科の在り方検討会議報告書」によると、適正規模を1学年5～8クラスとしている。また、活発な部活動の在り方を考慮したとき、1学年7クラス以上あることが望ましいと考えられる。

本市の平成25年5月1日現在の年齢別登録人口に基づき、15歳人口の推移を見ると、平成21年の3,800人から、27年の4,276人まで、毎年100名程度増加し続ける。その後は、緩やかな減少傾向にあるが、40年が3,845人と、21年の3,800人を下回ることはない。したがって、少なくとも、40年頃までは、1学年8クラスの現在の規模が維持されるものと推定される。

その後の生徒数の動向については、登録人口による推計ができないこと、少子化の影響と都市集中の度合いが見極めにくいことから、推計が困難である。長期的には、全国的な少子化の傾向から漸減することが予想される。しかしながら、基本構想の策定に当たっては、改築時期を 30～31 年頃に想定していることから、1 学年 8 クラス、の現在と同様の規模を想定することが必要である。

## 7 学科またはコースの新設の分野別検討

アンケート結果から、学校の特色として、約 8 割が進学重視の路線を継続するべきとの意見である。学科・コースの在り方については、85%が現行のままで良いとしており、新設が必要と考える分野は、スポーツの 5.8%が最も多く、以下、情報処理、美術、工芸・デザイン、演劇、書道、商業の順となっている。

アンケート結果からも、基本的には、現行の学科を維持し、進学校としての特徴をさらに伸ばす方向で検討するべきである。

その上で、さらに、長期的視点から、市立高校としての特色をどう打ち出していくべきか、どういう学科やコースの新設が考えられるか、具体的に検討する。

このうち、スポーツについては、新設が必要という回答が多いが、団体競技の場合は、優秀な人材を集めることについて、私立高校との競合があることや強引な勧誘は公立高校として問題があることから、新設することには疑問がある。むしろ、現在の学科構成の中で、部活動として優秀な人材の指導・育成に努めることが妥当ではないかと考える。

情報処理、商業、工芸・デザインについては、すでに県立高校に同種の高校が存在し、市立高校としての特色を出すことにはなりにくい。

演劇については、アンケート結果の数値が低いというえ、前記「3 学科を新設した場合のメリットと課題」に記載したように、進路保障、志望者の確保等、学科の新設には、課題が多い。

しかしながら、多様な価値観の理解や社交性が求められる現代社会において、演劇や音楽など芸術が持つ教育的効果によって、コミュニケーション能力や合意形成・人間関係形成能力の育成・向上が期待できることから、演劇的手法を取り入れたカリキュラムの工夫等について、検討すべきものとする。

具体的には、全校生徒を対象に、現在、実施しているキャリア教育をさらに充実させる位置付けで、新たに総合の時間等を利用してコミュニケーション能力向上等に関する講演やコミュニケーションワークショップ形式の体験型授業、非常勤講師による講義、部活動の新設・指導等を行うことが考えられる。

なお、コースの新設については、このような取組の中で、成果やニーズ等を踏まえた、将来的な課題とする。

## 第5章 施設整備

### 1 施設整備の基本的な考え方

施設整備に当たっては、文部科学省が示している高等学校施設整備指針に沿って行うことは、当然であるが、その中で高松一高の施設整備において特に留意すべき点と考えられるものは、次のとおりである。

#### (1) 生徒の主体的な学習活動を支える施設整備

- ① 自主的な学習のために、図書室、自習室の機能を充実するとともに、日常的に主体的な学習が促されるよう、普通教室等との連携を計画することが重要である。
- ② 生徒の学習成果の発表や討論のための場を計画することが重要である。
- ③ 少人数学習やゼミ形式の学習など、通常の授業形態以外の教育にも柔軟に対応できるよう多様なタイプの講義室など学習空間を十分に確保することが重要である。
- ④ 豊かな人間関係を築く観点から、部活動、生徒会、委員会の活動のための拠点を計画することが重要である。
- ⑤ 理科教育の充実のため、実験室を始めとする理科関係教室、様々な実験器具、情報機器等を活用できるよう計画することが重要である。

#### (2) 情報化や国際化に対応できる施設整備

- ① 情報環境充実のため、情報ネットワークの整備やコンピュータ、プロジェクタ等の情報機器およびソフトウェアの導入を積極的に推進することが重要である。
- ② 国際理解推進のため、外国との交流および日本の伝統的文化や異文化理解等の学習活動への対応を考慮した計画とすることが重要である。

#### (3) 安全でゆとりと潤いのある施設整備

- ① 生徒の生活の場として、ゆとりと潤いのある計画とすることが重要である。
- ② 生徒の健康に配慮し、校内の快適性に配慮した計画とすることが重要である。
- ③ 地震等の災害から、生徒の人命を守るとともに、災害時の避難場所としての機能に配慮した計画とすることが重要である。
- ④ 安全、防犯への対応のため、生徒の安全を確保し、事故や不審者侵入抑止に配慮した計画とすることが重要である。
- ⑤ 施設のバリアフリー対応に配慮し、障害のある生徒や保護者を始めとする来校者や怪我をした生徒等の利用を想定した計画とすることが重要である。
- ⑥ 環境との共生の観点から、環境教育や環境負荷の低減に配慮した計画とすることが重要である。
- ⑦ カウンセリング機能を充実する観点から、保健室や教育相談室、保護者のための相談スペース等、適切な環境を計画することが重要である。

#### (4) 地域と連携した施設整備

- ① 地域との連携を配慮し、生涯学習の基盤として長期的な視点から計画すること

が重要である。

## 2 具体的施設について

文部科学省の高等学校施設整備指針の中で、高松一高の施設整備において、具体的な施設を計画する際、特に留意すべき点と考えられるものは、次のとおりである。なお、基本的な構成として、従来のホームルーム中心型と大学で見られる講義室移動型があるが、クラス単位のまとまりが得られ、生徒が落ち着くなどの教育上の理由および県立高校の運用状況から、ホームルーム中心型を採用する。

### (1) 学習関係諸室

- ① 普通教室(\*1)と講義室は、図書室、視聴覚教室、コンピュータ教室、自習室等との連携に配慮して配置を計画すること、同一学年の普通教室は、同一階および同一区画にまとめて計画することが重要である。
- ② 特別教室は、その準備室、資料室、講義室、教員研究室等との連携を図り、教科の内容にふさわしい環境を構成できるよう、まとめて計画することが望ましい。
- ③ 図書室は、自習スペースやグループ学習で利用できる室・空間を計画すること、学習・研究成果を展示できる空間を計画することが望ましい。
- ④ 講義室は、利用形態に応じ、必要な規模、数のものを確保し、関連する他の室・空間との連絡に留意しつつ、適切な位置に計画することが重要である。
- ⑤ 視聴覚教室、コンピュータ教室等は、全校の生徒が日常的に利用しやすい位置に配置することが重要である。
- ⑥ 生徒指導、教育相談、キャリア・カウンセリング（進路相談、履修指導）のそれぞれに必要な面談室、資料室等は、生徒等が安心して利用でき、静かで落ち着いて相談等を行うことのできる位置とするなど配置に留意して計画することが重要である。特に、教育相談については、複数の小室を計画することが望ましい。
- ⑦ 生徒会活動等のための特別活動室は、他の室・空間との役割分担を明確にしつつ、多様な活動に応じ必要となる規模の空間を、活動に適した位置に計画することが重要である。
- ⑧ 自習等のための空間を、普通教室、図書室等との関連に留意しつつ計画することも有効である。
- ⑨ 放送室は、教職員だけでなく生徒による放送活動にも便利な位置に計画することが望ましい。
- ⑩ 教材などの複写、印刷等を行う専用のスペースを、学習関係諸室のまとまりの中に配置することも有効である。

### (2) 運動施設

- ① 屋内運動施設は、教科体育、体育的行事、部活動等における各種の運動に必要な規模を確保するとともに、地域の防災拠点としての利用に配慮した計画とすることが重要である。

また、儀式的行事、文化的行事、各種集会、学習・研究成果の発表等における利用のため、必要な規模のステージ、控え室等の空間を確保することが望ましく、各種トレーニング器具をまとめて配置したトレーニングルームやダンススタジオを計画することも有効である。

そのほか、柔道、剣道、弓道等の武道を行う専用の施設、更衣室、便所、防具庫等の附属施設を一体的に計画することが望ましい。

- ② 屋外運動施設は、教科体育、体育的行事、部活動等における各種の運動に必要な規模を確保することが重要であり、陸上用タータントラック、サッカー・テニス・ハンドボール等のコートおよび野球グラウンドなどを整備することが望ましい。

### (3) 生活・交流空間

- ① ホームルーム活動、生徒の持ち物の保管、生徒への情報伝達などの生活のための空間の設定に十分留意して計画することが重要である。

- ② 短い時間にも生徒が気軽に休憩、談話等に利用することのできるよう、ロビー、ラウンジなどのゆとりのある空間を計画することが望ましい。

- ③ 講堂・ホール等は、儀式的行事、文化的行事、各種集会、学習・研究成果の発表等の場として、利用目的・利用人数等を考慮し、適切な規模と附属施設を確保することが重要である。

- ④ 部活動の活動場所を確保することが重要であり、部室は、管理・指導面に十分留意しつつ、活動を行う場との連絡の良い位置に、共同利用できるミーティング室、更衣室、用具収納庫、手・足洗い場等と、まとまりを持たせて配置することが望ましい。

- ⑤ 食堂は、利用状況等に応じた適切な規模を、調理室との位置関係に留意し、良好な環境の確保にも配慮した適切な位置に計画することが重要である。

- ⑥ セミナーハウスは、利用人数、利用方法等に応じ、必要な規模、数の男女別の宿泊室、研修室、指導員室、浴室、洗面所、便所を計画することが望ましく、必要に応じて、食堂、厨房等を、計画することも有効である。

### (4) 共通空間

- ① 昇降口は、始業時、終業時等における利用人数およびその集中度や履き替え方式等に応じ、十分な規模のものを計画することが重要である。

- ② 便所は、生徒の分布の状況および動線を考慮し、生徒等が利用しやすい位置に、男女別に計画すること、障がい(一時的な負傷を含む。)のある生徒や教職員、保護者の利用に配慮した便所を計画すること、教職員や外来者用のものは、生徒用とは

別に、適切な位置に計画することが重要であり、生活様式の変化に対応して洋式のものを中心に配置することが望ましい。

- ③ 廊下、階段、必要な規模のエレベーターホール等の空間を、安全かつ円滑な動線としての機能を確保できるよう適切な位置に計画することが重要である。

#### (5) 管理関係室

- ① 教職員諸室は、校務、教務等の執務内容や方式に基づき、必要な規模の空間を確保すること、相互の機能的な連携が確保できるよう、相互に適切な位置関係に計画することが重要である。また、中央職員室は、屋外運動場やアプローチ部分などへの見通しが良く校内各所への移動に便利な位置に計画することが重要である。
- ② 事務室は、校長室、職員室、外来用玄関等との連絡のよい位置に計画することが重要である。
- ③ 保健室は、屋内外の運動施設との連絡がよく、生徒の出入りに便利な位置に計画すること、救急車が容易に近接できる位置に計画することが重要であり、職員室等と連絡のよい位置に計画することが望ましい。
- ④ 倉庫、機械室等は、物品の種類に応じ管理や出し入れのしやすい方式を検討し、必要となる空間を確保することが重要であり、生徒の学習・生活空間から離れた位置に計画することが望ましい。
- ⑤ ごみ置き場は、分別収集に対応できる規模のものを、適切な位置に計画することが重要である。なお、高層化する場合は、ごみの収集方法に関するシステムに応じ、階上の適切な位置にも計画することが望ましい。

### 3 その他の留意すべき事項

#### (1) プールについて

プールについては、現在、本校の周囲に、高層マンションが集中している立地環境や、施設が老朽化していること、水泳の授業選択希望者がいないこと、県立高校においてもプールがない高校や使用停止中の高校が多いことなどから、22年度から使用を停止しているが、将来的に教育課程の変更がありうること、災害時の避難所となることを考慮すると、現在のものより小規模なもの(25m)の整備を検討する必要がある。

#### (2) 同窓会館について

県立高校の中でも、高松高校、丸亀高校、坂出高校、観音寺第一高校など歴史のある高校は、校舎敷地内に同窓会館を設置している高校が多く、本校においても、建設費用の負担方法については、他の県立高校の例を参考に同窓会と協議しながら、設置を検討する必要がある。

#### (3) その他

自転車通学生徒のための駐輪場、来客や保護者のための駐車スペースが必要である。また、環境教育の観点から、屋上の太陽光発電設備についても、設置を検討する必

要がある。

#### 4 校舎の高層化

前記のような施設を整備するためには、限られた敷地内での有効利用を図り、校舎の高層化を検討する必要がある。大都市圏の高校では、校舎の高層化は珍しくなく、高松一高においても、生徒の安全性や周辺住民への影響を考慮しつつ、一定程度の高層化が必要になる。

また、高層化と併せて、校舎のデザインについては、特色あるものとするとともに、今後の維持修繕コストにも配慮したものとするよう留意すべきである。

#### 5 施設整備に関するアンケート結果

保護者、生徒、教員に対して、現在、現敷地内で利用されている施設以外で必要と思う施設を挙げてもらった結果は、次のとおりである。（回答数 1,120 人）

（生徒が利用する施設）

① 合宿が可能なセミナーハウス	41.9%
② プール	22.5%
③ 野球部練習グラウンド	18.9%
④ スーパーサイエンスハイスクール用実験室	15.7%
⑤ 講堂	15.4%

（その他の施設）

太陽光発電施設	30.1%
---------	-------

（その他の自由記載で多かった意見）

タータントラック、雨天練習場、トレーニングルーム等運動施設の充実、自習室の充実、食堂・売店の充実、大型エレベーター

### 第6章 改築スケジュールと概算事業費

現時点における改築スケジュール案については、別添資料のとおりであり、基本設計、実施設計を26～28年度、校舎棟の一部解体と仮設校舎設置を29年度に行い、30～33年度で改築工事を行いたいと考えている。

また、概算事業費について、30年度着工を想定し、現時点では約80億円（消費税10%込）を見込んでいる。ただし、この概算は、基本設計前のものであり、想定建築面積に類似施設の面積当たり建築費用を乗じたものなどを基礎としているため、今後の基本設計の内容や労務単価等建築費の動向などにより相当の変動を生じるものと考えられる。

# 高松第一高等学校校舎改築基本構想

## 附属資料

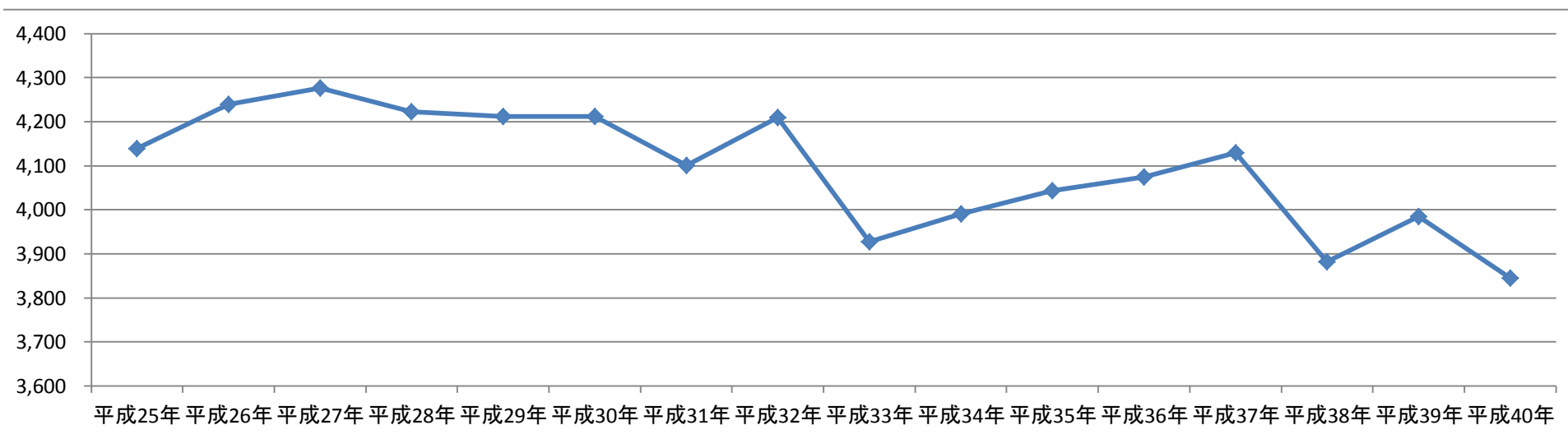
- 1 高松市の15歳人口の変遷
- 2 高松第一高等学校グランドデザイン
- 3 アンケート結果
- 4 新校舎施設検討資料
- 5 改築スケジュール
- 6 高松第一高等学校改築基本構想検討懇話会設置要綱
- 7 高松第一高等学校改築基本構想検討懇話会委員名簿
- 8 高松第一高等学校改築基本構想庁内検討委員会設置要綱



## 1 高松市の15歳人口の変遷

高松市の年齢別登録人口から、今後、15年間の中学卒業生数を推計

平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年	平成32年	平成33年	平成34年	平成35年	平成36年	平成37年	平成38年	平成39年	平成40年
4,139	4,240	4,276	4,223	4,212	4,212	4,101	4,209	3,927	3,991	4,043	4,074	4,130	3,882	3,985	3,845



高松一高生徒に占める高松市立中学校卒業生の比率

年度	18	19	20	21	22	23	24	25
比率(%)	82	81	83	84	84	82	81	83

### 一 高 の ミッション

- ① 県都高松市の教育のシンボルとなること
  - ② 質の高い高等学校教育を行い、将来の高松市を支える人材を育成すること
  - ③ 高松市の教育活動の推進拠点としての役割を果たすこと
- ・科学教育・国際教育・芸術教育・スポーツ活動・文化活動



高松第一高等学校  
グランドデザイン

### 一 高 の 特 徴

- ・国公立大学への進学率がトップクラスの進学校
- ・明るく活気にあふれる生徒と盛んな部活動
- ・SSH指定校として高度な科学教育の実施
- ・コミュニケーション能力の育成と国際交流の実施
- ・音楽科、美専による専門的な芸術教育の実施
- ・交通の便が良い立地と熱意ある指導者の存在

### めざす生徒像

- ・創造的な知性
- ・豊かな人間性と社会性
- ・たくましい心身
- ・自主と自律に拠る自由の精神

### 教 育 目 標

高松第一高等学校は、国際社会や国家、地域で活躍し、人類の福祉や文化の向上に貢献できる創造的な知性や豊かな人間性、社会性を身につけるとともに、生涯にわたって自己実現を図ることができる、心身ともにたくましく、自主と自律に拠る自由の精神を備えた人間の育成をめざす。

### めざす教職員像

- ・不断の研鑽と高い専門性
- ・学び合い、育て合う校風
- ・組織的な連携による教育
- ・生徒、保護者、教師一体の教育

### 重 点 方 針

○学びの場を支える快適で充実した環境の整備

○卒業後の進路を保障する授業と進路指導

○自律と社会性を育てる生徒指導と部活動

○自主性と人間性を培う学校行事や特別活動

○職種専門性を高める授業研究や校内研修

### 今年度の努力目標

- ・耐震工事跡等の整備による校内緑化の推進
- ・照明整備や床清掃実施による音楽科棟の環境整備
- ・清掃用具の整備等による清掃活動の活性化と美化意識の向上
- ・HPや学年団通信による外部への活動状況の発信
- ・教育相談等による心身の問題を抱える生徒への理解促進と早期対応

- ・授業の充実による学ぶ意欲の喚起と学力の向上
- ・3年間を見通す進路計画策定による計画的学習指導と進路指導の推進
- ・SSH先進的カリキュラムによる探究力の向上
- ・海外語学研修やCBIによる英語力の向上
- ・総合的な学習の時間による主体的に学ぶ力や伝える力、進路意識の育成

- ・指導ポイントの意識化による全教員での組織的な生徒指導の実施
- ・定期的な挨拶、遅刻、服装指導等による基本的生活習慣の確立や規範意識の育成
- ・部活動による異年齢集団での社会性や目標達成のための自律心の育成
- ・1年生への部活動奨励による心身の健全育成と部活動の活性化

- ・HR活動、体育祭、一高祭、研修旅行による主体性や自主性の育成
- ・生徒会活動等による自治能力や人間性の育成
- ・研修旅行や朝の読書による広い視野や教養の涵養
- ・人権・同和教育HRや講演会による人権意識の向上
- ・自然科学講演会による市民として必要な科学リテラシーの育成

- ・MM週間やスーパーティーチャー招聘授業による基本的指導力の自己改善の促進
- ・教科毎の研究授業による専門的指導力の向上推進
- ・進路、教育相談、人権同和教育等の職員研修による課題対応力の向上促進
- ・県立高校事務長会参加による情報交換の推進
- ・用務職員の研修会参加と業務日誌作成による業務改善

### 3 アンケート結果

第1表 回答者種類別回答数

		回答数	17	44	514	562	41	22	14	1,214	(%)
問1	本校の特色（使命と役割）について、どのようなことに力点を置けば良いと思いますか。（複数回答可）	一般	教員	保護者	一高生	OB会役員	中学校長	中P会長	回答計	比率	
	1 進学を重視した普通教育と音楽教育（現行のまま）	9	36	398	408	32	11	11	905	79.0	
	2 音楽教育を行わず、進学を重視した普通教育	2	2	48	35	1	3	0	91	7.9	
	3 コミュニケーション能力を含めたグローバル化に対応できる国際教育	6	12	224	188	16	9	5	460	40.2	
	4 芸術系なども重視したより幅広い教育	5	2	29	55	4	3	2	100	8.7	
	5 多くの学科・コースを設定し、生徒の多様な適性・希望に対応できる教育	3	4	4	88	10	3	3	115	10.0	
	6 その他	3	3	7	8	3	2	1	27		

		一般	教員	保護者	一高生	OB会役員	中学校長	中P会長	回答計	比率	(%)
問2	高松第一高等学校の学科・コースの在り方について（複数回答可）	7	39	398	474	30	14	11	973	85.0	
	1 現行の学科・コースで良い。（普通科と音楽科を置き、普通科の中に「文理コース」、 「特別理科コース」、 「国際文科コース」、 「美術専門コース」を設けている。）	2	2	48	57	6	3	3	121	10.6	
	2 普通科と芸術科を置き、芸術科の中に「音楽コース」・「美術コース」・「演劇コース」を設ける。										
	3 学科・コースの新設が必要と考える方は、下記の分野から3つまでを選び、○を付けてください。										
	1 スポーツ	2	3	18	32	8	3	0	66	5.8	
	2 美術	4	3	16	12	2	1	0	38	3.3	
	3 工芸・デザイン	3	0	12	17	2	1	1	36	3.1	
	4 書道	2	1	11	7	2	1	0	24	2.1	
	5 演劇	1	0	12	15	1	0	0	29	2.5	
	6 情報処理	4	0	24	15	5	1	0	49	4.3	
	7 商業	1	0	7	12	1	0	1	22	1.9	
	8 その他	0	0	4	1	1	0	0	6		

		一般	教員	保護者	一高生	OB会役員	中P会長	回答計	比率	(%)
問3	高松第一高等学校の地域との関わりについて（択一回答）									
	1 防災拠点や運動場の開放等、現状程度の関わりで良い。	4	34	332	397	24	7	791	66.4	
	2 図書館や音楽ホールの開放など、さらに地域に開かれた関係を持つ方が良い。	13	6	122	157	14	7	312	26.2	

		教員	保護者	一高生	回答計	比率	(%)
問4	改築に当たって、普通教室、特別教室、体育館・運動場、図書館、職員室、音楽棟、部室など現在使用されている施設以外で、現敷地内で、どんな施設が必要とご思いますか。（複数回答可）						
	1 プール	11	104	137	252	22.5	
	2 太陽光発電施設	21	160	156	337	30.1	
	3 野球部練習グラウンド	15	74	123	212	18.9	
	4 講堂	9	72	91	172	15.4	
	5 合宿が可能なセミナーハウス	26	222	221	469	41.9	
	6 スーパーサイエンスハイスクール用実験室	4	98	74	176	15.7	
	7 その他	21	45	84	150		

第2表 回答者種類別回答比率

		回答数						
		17	44	514	562	41	22	14 (%)
問1	本校の特色（使命と役割）について、どのようなことに力点を置けば良いと思いますか。（複数回答可）	一般	教員	保護者	一高生	OB会役員	中学校長	中P会長
	1 進学を重視した普通教育と音楽教育（現行のまま）	52.9	81.8	77.4	72.6	78.0	50.0	78.6
	2 音楽教育を行わず、進学を重視した普通教育	11.8	4.5	9.3	6.2	2.4	13.6	0.0
	3 コミュニケーション能力を含めたグローバル化に対応できる国際教育	35.3	27.3	43.6	33.5	39.0	40.9	35.7
	4 芸術系なども重視したより幅広い教育	29.4	4.5	5.6	9.8	9.8	13.6	14.3
	5 多くの学科・コースを設定し、生徒の多様な適性・希望に対応できる教育	17.6	9.1	0.8	15.7	24.4	13.6	21.4
	6 その他	17.6	6.8	1.4	1.4	7.3	9.1	7.1

(%)

問2	高松第一高等学校の学科・コースの在り方について（複数回答可）	一般	教員	保護者	一高生	OB会役員	中学校長	中P会長
	1 現行の学科・コースで良い。（普通科と音楽科を置き、普通科の中に「文理コース」、「特別理科コース」、「国際文科コース」、「美術専門コース」を設けている。）	41.2	88.6	77.4	84.3	73.2	63.6	78.6
	2 普通科と芸術科を置き、芸術科の中に「音楽コース」・「美術コース」・「演劇コース」を設ける。	11.8	4.5	9.3	6.2	2.4	13.6	0.0
	3 学科・コースの新設が必要と考える方は、下記の分野から3つまでを選び、○を付けてください。							
	1 スポーツ	11.8	6.8	3.5	5.7	19.5	13.6	0.0
	2 美術	23.5	6.8	3.1	2.1	4.9	4.5	0.0
	3 工芸・デザイン	17.6	0.0	2.3	3.0	4.9	4.5	7.1
	4 書道	11.8	2.3	2.1	1.2	4.9	4.5	0.0
	5 演劇	5.9	0.0	2.3	2.7	2.4	0.0	0.0
	6 情報処理	23.5	0.0	4.7	2.7	12.2	4.5	0.0
	7 商業	5.9	0.0	1.4	2.1	2.4	0.0	7.1
	8 その他	0.0	0.0	0.8	0.2	2.4	0.0	0.0

(%)

問3	高松第一高等学校の地域との関わりについて（択一回答）	一般	教員	保護者	一高生	OB会役員	中P会長
	1 防災拠点や運動場の開放等、現状程度の関わりで良い。	23.5	77.3	64.6	70.6	58.5	50.0
	2 図書館や音楽ホールの開放など、さらに地域に開かれた関係を持つ方が良い。	76.5	13.6	23.7	27.9	34.1	50.0

(%)

問4	改築に当たって、普通教室、特別教室、体育館・運動場、図書館、職員室、音楽棟、部室など現在使用されている施設以外で、現敷地内で、どんな施設が必要と思いますか。（複数回答可）	教員	保護者	一高生
	1 プール	25.0	20.2	24.4
	2 太陽光発電施設	47.7	31.1	27.8
	3 野球部練習グラウンド	34.1	14.4	21.9
	4 講堂	20.5	14.0	16.2
	5 合宿が可能なセミナーハウス	59.1	43.2	39.3
	6 スーパーサイエンスハイスクール用実験室	9.1	19.1	13.2

## 4 新校舎施設検討資料

必→必須 数・面積を  
 高→必要度高  
 中→必要度中 1→現在以上  
 低→必要度低 2→検討要

※改築を予定していない音楽棟を除く

(1) 学習関係諸室	現在数	摘要(現在)	改築時	摘要(想定)	必要度	数・面積
① 普通教室						
①-1 普通教室	23	10×7m	23	3学年×8教室のうち1教室は音楽棟にある。	必	1
①-2 補習科室	1		1		必	1
② 特別教室						
②-1 特別教室	8	音楽1、美術2、書道1、地理1、被服1、食物1、マフメイ(LL)1	8	音楽1、美術2、書道1、地理1、被服1、食物1、マフメイ(LL)1	必	2
②-2 特別教室準備室	5	音楽1、美術1、書道1、被服1、食物1	7	音楽1、美術1、書道1、地理1、被服1、食物1、マフメイ(LL)1	必	1
②-3 実験室	6	物理1、化学2、生物2、理科1	7	物理2、化学2、生物2、理科1	必	1
②-4 実験室準備室	4	物理1、化学1、生物1、地学1	4	物理1、化学1、生物1、地学1	必	1
②-5 SSH小実験室		物理1、化学1、生物1、地学1	4	物理1、化学1、生物1、地学1	必	1
②-6 SSH小実験室準備室		物理・化学1、生物・地学1	2	物理・化学1、生物・地学1	必	1
②-7 音楽練習個室	10	音楽科個別練習用	10	音楽科個別練習用	必	2
③ 図書室		700㎡				
③-1 開架書庫	1		1		必	2
③-2 閉架書庫	1		1	書道・絵画等の保管スペースの追加	必	2
③-3 図書閲覧スペース	1	閲覧席80	1		必	2
③-4 図書室内展示スペース	1	生徒作品展示スペース	1	書道・絵画等の展示スペースの追加	必	2
③-5 図書準備室	1		1	図書整理作業に使用	必	2
④ 講義室						
④-1 講義室	1	クラス分割授業時に使用	1	クラス分割授業時に使用	必	2
⑤ 視聴覚教室・コンピュータ教室等						
⑤-1 視聴覚教室	1		1		必	1
⑤-2 視聴覚教室準備室			1	視聴覚機材や教材の準備・保管	必	1
⑤-3 コンピュータ教室	1		1		必	1
⑤-4 コンピュータ教室準備室			1	各種機器やソフトの準備・保管	必	1
⑤-5 多目的教室	1	クラス分割授業時や海外の高校生対応場所として使用	1	クラス分割授業時や海外の高校生対応場所として使用	必	2
⑥ 生徒指導・教育相談・進路指導室						
⑥-1 生徒指導面談室	1	現在生徒指導職員室奥に配置	1	生徒指導(生徒・保護者面談)に使用	必	2
⑥-2 教育相談面談室	1		1		高	2
⑥-3 教育相談面談室(複数の小室)			2		必	2
⑥-4 進路相談資料室	1		1		必	1
⑦ 生徒会活動室						
⑦-1 生徒会室	1		1		必	2
⑧ 自習室						
⑧-1 自習室			3	各学年に1	高	2
⑨ 放送室						
⑨-1 放送室	1		1	放送スタジオ付き	必	1
⑩ 印刷室						
⑩-1 印刷室	1		1		必	1

※屋外運動施設の場所は一例

(2) 運動施設	現在数	摘要(現在)	改築時	摘要(想定)	必要度	数・面積
<b>① 屋内運動施設</b>						
①-1 体育館	2	教科体育・部活動・儀式的行事・文化行事に使用	1	高層化(3F)、アリーナの広さバスケットボール3面	必	2
①-2 体育館内ステージ、控え室	1	儀式的行事、文化行事に使用	1	儀式的行事、文化行事に使用	必	2
①-3 トレーニングルーム	1	10×40m	1		必	2
①-4 ダンススタジオ			1	教科体育・部活動で使用	高	2
①-5 柔道場	1	12×31m	1	教科体育・部活動で使用、コート2面分必要	必	2
①-6 剣道場	1	12×31m	1	教科体育・部活動で使用、コート2面分必要	必	2
①-7 弓道場	1		1	教科体育・部活動で使用	必	2
①-8 更衣室、便所	2	各施設に配置	3	高層化した場合、各階に配置	必	1
①-9 用具庫	1	弓道場のみ設置	3	各道場用に設置	高	2
<b>② 屋外運動施設</b>						
運動場13, 450㎡						
②-1 陸上用タータントラック			1	200m、教科体育・部活動・体育的行事で使用	必	2
②-2 サッカーコート	1	運動場内	1	北館・中館跡地	必	2
②-3 テニスコート	4	運動場内	4	プール跡地	必	2
②-4 ハンドボールコート	2	運動場内	2	北館・中館跡地	必	2
②-5 野球グラウンド		校外で練習	1		高	2
②-6 雨天練習場	1		1	体育館1階	高	2
②-7 プール	1	使用中中止 別用地	1	体育館屋上	高	2
②-8 用具庫	1		1		必	2

(3) 生活・交流空間	現在数	摘要(現在)	改築時	摘要(想定)	必要度	数・面積
<b>① 生徒用保管庫・情報伝達空間</b>						
①-1 生徒用ロッカー	1/2	普通教室内に生徒2人で1つ	1		必	2
<b>② ロビー・ラウンジ</b>						
②-1 ロビー	1	玄関奥	1		必	2
②-2 ラウンジ			1		高	2
<b>③ 講堂・ホール等</b>						
③-1 講堂	1	5階 30×12m	1	儀式的行事・講演会・演奏会・SSH発表会で使用	必	2
③-2 ホール			1		高	2
<b>④ 部活動活動場所</b>						
約80%のスペース確保						
④-1 部室	1		1		必	2
④-2 共同利用できるミーティング室			1		中	2
④-3 更衣室	2		2		必	1
④-4 用具収納庫	必要数		必要数		必	2
④-5 手・足洗い場	1		2		必	2
<b>⑤ 食堂等</b>						
⑤-1 食堂	1	13×8m	1		必	1
⑤-2 調理室	1		1		必	1
⑤-3 購買部売店	1	7×6m	1		必	2
<b>⑥ セミナーハウス</b>						
現一高会館						
⑥-1 宿泊室	2	男女別	2	同窓会館として1フロア設ける	必	2



## 5 改築スケジュール

	26年度		27年度	28年度	29年度		30年度	31年度	32年度	33年度
全体	パブコメ			実施設計	仮設校舎 設置	校舎棟 (本館) 解体	改築 →			
	基本構想策定									
その他	測量		プール解体実施設計	プール解体			校舎棟・体育館	現体育館 解体	食堂 図書館	



## 高松第一高等学校改築基本構想検討懇話会設置要綱

### (設置)

第1条 高松第一高等学校改築基本構想の策定に当たり、県内唯一の市立高校としての特色ある学校づくりを念頭に、広く市民の意見を聴くため、高松第一高等学校改築基本構想検討懇話会（以下「懇話会」という。）を置く。

### (組織)

第2条 懇話会は、委員10人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから、教育委員会が委嘱する。

- (1) 学識経験者
- (2) 高松第一高等学校に関係する団体の代表者
- (3) 前2号に掲げる者のほか、教育委員会が必要と認める者

(会長および副会長)

第3条 懇話会に会長および副会長を1人置き、委員の互選により定める。

2 会長は、会務を総理し、懇話会を代表する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、または会長が欠けたときは、その職務を代理する。

### (会議)

第4条 会議は、会長が招集し、会長は、会議の議長となる。

2 会議は、過半数の委員が出席しなければ、開くことができない。

3 会長は、必要があると認めるときは、関係者の出席を求め、その意見等を聴くことができる。

### (庶務)

第5条 懇話会の庶務は、高松第一高等学校事務部門において行う。

### (委任)

第6条 この要綱に定めるもののほか、懇話会の運営に関し必要な事項は、会長が懇話会に諮って定める。

## 附 則

### (施行時期)

1 この要綱は、平成25年4月1日から施行する。

### (招集の特例)

2 この要綱による最初の懇話会の会議は、第4条第1項の規定にかかわらず、教育委員会が招集する。

### (この要綱の失効)

3 この要綱は、懇話会の目的を達成した日限り、その効力を失う。

## 高松第一高等学校改築基本構想検討懇話会委員名簿

平成25年9月1日委嘱（敬称略）

	氏名	役職名等
会長	多田野 榮	高松第一高等学校桜紫会（同窓会）長
副会長	橋本 一仁	学識経験（四国学院大学教授 芸術関係）
委員	池内 一恵	学校評議員
委員	菅 ゆり	高松第一高等学校PTA会長
委員	白石 幸一	公募委員
委員	高木 由美子	学識経験（香川大学教授 科学関係）
委員	竹内 秀夫※1	香川県教育委員会高校教育課長
委員	福田 安伸※2	高松市中学校校長会会長
委員	松本 加代子	公募委員
委員	若井 健司	学識経験（香川大学教授 音楽関係）

※1 香川県教育委員会高校教育課長の異動により、平成26年4月1日付けで、出射隆文氏に委嘱

※2 高松市中学校校長会会長の変更により、平成26年4月1日付けで、金崎光宏氏に変更

## 高松第一高等学校改築基本構想庁内検討委員会設置要綱

### (設置)

第1条 高松第一高等学校改築基本構想(仮称)の策定に関し必要な事項を検討するため、高松第一高等学校改築基本構想庁内検討委員会(以下「検討委員会」という。)を設置する。

### (所掌事項)

第2条 検討委員会は、次に掲げる事項について検討を行う。

- (1) 高松第一高等学校の在り方(果たすべき使命、設置する学科、学校施設の規模その他必要な事項をいう。)に関すること。
- (2) 校舎等の改築に関すること。
- (3) 前2号に掲げるもののほか、前条の目的を達成するために必要な事項

### (組織)

第3条 検討委員会は、委員長および委員で組織する。

- 2 委員長および委員は、別表に掲げる職にある者をもって充てる。
- 3 委員長は、検討委員会を代表し、会務を総理する。
- 4 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名する委員が、その職務を代理する。

### (会議)

第4条 検討委員会の会議は、委員長が招集し、委員長は、会議の議長となる。

- 2 委員長は、必要があると認めるときは、検討委員会の会議に関係者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

### (庶務)

第5条 検討委員会の庶務は、高松第一高等学校の事務部門において行う。

### (委任)

第6条 この要綱に定めるもののほか、検討委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が定める。

## 附 則

- 1 この要綱は、平成25年5月20日から施行する。

2 この要綱は、検討委員会の目的をすべて完了した日に、その効力を失う。

別表(第3条関係)

役 職 名	職 名
委 員 長	教育局次長（高松第一高等学校担当）
委 員	政策課長
	文化芸術振興課長
	建築課長
	教育局総務課長
	学校教育課長
	保健体育課長
	高松第一高等学校長
	高松第一高等学校事務長